

10 他大学との交流 (静岡県立大学ボランティアセンター構想フォーラム)

教員総括

2017年12月16日に、静岡県立大学ボランティアセンター構想フォーラムにお招きいただき、学生3名、教職員3名で静岡県立大学を訪問し、本学ボランティアセンターの取り組みについてプレゼンテーションを行うとともに、ボランティアセンター（ボラセン）が果たす役割についての意見交換を行った。

本フォーラムは、静岡県立大学においてボラセン設立に向けて自発的に活動を行う学生によって企画されたもので、中心は地域づくりや若者支援についての授業を展開する津富宏先生のゼミ生が担っている。津富先生は2017年3月に学生とともに本学ボラセンを訪問しており、それが縁となって今回お招きいただくこととなった。

明治学院大学以外には、堺市で地域と連携したボラセンを運営している大阪府立大学、学生自身がコーディネータとして活躍し、地域と大学生を結びつけて活動する神奈川大学などの大学が参加していた。2018年で20年を迎える本学のボラセンは、全学のなかでのサポート体制が整備されるとともに、教職員の配置も他大学と比べると手厚くなっている。活動も多岐にわたっているが、一方でこれまで行われてきた活動を継続する意識が強くなり、ボラセンができて日の浅い大学やこれからつくろうとする大学と比べると、学生自身がやりたいこと、試行錯誤しながら進めていく部分は弱くなっているようにも感じた。特に静岡県立大学の学生は、当日の運営については教職員のサポートをほとんど受けずに企画運営しており、そのエネルギーには目を見張るものがあった。同時に、学生同士が支えあう仕組みをつくるというボラセン設立に向けた思いは、なぜボラセンがあるのか、ボラセンが何を実現するのか改めて考える機会をもたない私たちにとって、存在意義を改めて考える場ともなった。

今回の訪問によってできた他大学との関係も生かしながら、20周年の先のボラセンがどうあるべきなのか、新しく大きな絵を描いていきたいと思う。

(ボランティアセンター長補佐 猪瀬浩平)

学生総括

12月16日、静岡県立大学ボランティアセンター構想フォーラムに参加した。職員3名、学生メンバー3名で同大学に行き、明治学院大学ボランティアセンターや自分たちの活動についての発表、他大学の話を聞いた。その後、グループに分かれてのディスカッションを行い、ボランティア活動をするうえでの課題などを話し合った。全部で四つの大学が参加していて、それぞれの大学の職員、学生と関わった。

自分たちの活動を学外で直接話すということは今までなかったため初めは緊張もあったが、貴重な機会になったと思う。さらに、他大学のボランティアセンターやボランティア活動についてはほとんど知らなかったため、話を聞くことはとても刺激的であった。ボランティア活動の種類も多様であったし、学生がボランティアコーディネーターのような役割をしている大学もあり、自分たちもまだまだ新しいことに挑戦できると感じた。今回の経験をしっかりと明治学院大学ボランティアセンターにも生かせるように、自分が感じたことを大切に、発展へとつなげていきたい。また、他大学との交流は想像以上に新しいことを発見でき、充実したものであったため、今後も大学外の人との関わりを大切にしていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)